

平成26年度

## 授業改善推進プランのまとめ

■ 国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 英語 ■  
全体計画  
道徳 総合的な学習の時間 特別活動

西東京市立田無第二中学校

平成26年9月25日

『平成26年度授業改善推進プラン全体計画』

西東京市立田無第二中学校

田無第二中学校の授業改善のための方針

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

- (1) 落ち着いた学習環境の中で、教科書や教師の指導を理解する力
- (2) 学習内容を整理し、基本的な知識を確実に定着させる力
- (3) 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、新たな知識を推察していく力
- (4) 自己の興味・関心をもとに、主体的に考え、課題の設定・解決を目指す力
- (5) 体得した知識・理解を他にも実行できる力とその意欲
- (6) 個性の伸長を図ると共に、協力して社会や集団を改善しようとする力

「気づき」を大切に、自ら進んで学習する態度を養う。

体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、学力の定着を目指す。

習熟の程度に応じた指導を展開し、確実な基礎の定着を目指す。

触れ合いや発表を通して、状況に応じた表現ができるようにする。

道徳的価値に基づいた心情と判断力

基本的な生活習慣の確立と礼儀作法の定着

学校生活の充実と自主・自立の態度

希望や目標をもって自己実現を図る力

本校の授業改善に向けた視点

指導方法・指導内容の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
① 各教科基礎的・基本的学力の向上・定着を図るため、指導方法の工夫と改善に努める。 ② 学習意欲の向上を目指し生徒が主体的に取り組める授業となるよう、TTや少人数指導による授業、ALT等の活用を図る。	① 年間指導計画に基づき、授業時数の確保に努める。 ② 二中タイムを活用しテーマ読書による言語活動の充実を図る。 ③ 週ごとの指導計画(週案)により、進度の調整と指導の定着を確認していく。 ④ TTや少人数指導で個々の生徒に応じた授業を展開する。 ⑤ 補習体制を充実させ生徒への対応を図る。	① 増加する初任者教員には、授業研究を推進し、授業力向上を図る。 ② 研究指定校として全教職員が各教科において、交流活動を通し自尊心や自己肯定感の向上を目指した指導案の作成と研究授業を実施し、合わせて教科指導力も向上させる。	① 小テスト・提出物・レポートを多く実施し、コメントの作成により激励と評価を行い、形成的評価を行う。 ② 評価の観点を生徒に説明し、到達目標を明らかにして、学習意欲を高める。	① 三者面談を通して生活規律を指導すると共に学習時間の確保を各家庭へ呼びかける。 ② 基礎的な課題を多く作成し、宿題等も含めた家庭学習の習慣を定着させる。 ③ 教員相互や外部の方の授業参観を通して生徒の学習態度や指導方法について、外部評価により指導の工夫を図る。

これまでの授業改善の取り組み

- ① 落ち着いた学習に取り組める雰囲気づくり
- ② この授業のねらいの伝達と、達成状況の把握をする
- ③ 副教材(ワークシート、プリント等)の有効利用
- ④ 到達度・達成度をはかる小テストの実施
- ⑤ 授業への参加意識の高揚
- ⑥ 宿題、提出物、レポート提出の徹底
- ⑦ 板書内容の精査と発問の工夫
- ⑧ 放課後や休業中の学習会や補講の開催

改善プランの成果

- ① 基礎学力の定着
- ② 検定合格者の増加
- ③ 学習会への参加者の増加

改善プランの課題

- ① 意欲的に学習できる雰囲気づくり
- ② 不参加者、未提出者への対応
- ③ 基礎理解の上に立った応用力の伸長
- ④ 教科としての体制づくり

「全国学力・学習状況調査」

「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」

結果分析

全国の調査も都の調査においても、平均をほぼ上回っており、基礎学力については概ね良好であると思われる。ただ、細かく見たときに関心・意欲・態度や思考・判断・表現・話す・聞くなどに課題がある。また、解決する力や取り出す力という観点で不十分さを感じるものもある。そこで、この不十分な部分を補いさらに学力を高めるための授業改善を図っていく必要がある。本校の研究指定校課題「交流活動を通して自尊心を醸成する指導の研究推進」を中心に、交流活動を通して生徒の主体的に学ぶ意欲を育成し、授業改善を通して更なる学力の向上を図る。

# 【国語】

## 1 教科の目標

日本語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。また思考力・想像力・表現力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる。

## 2 教科として考える「確かな学力」とは、

- ① 国語への関心・意欲・態度を高めることにより、主体的に思考する力を深める。
- ② 書く力を高めることにより、学習内容を整理する力を深める。
- ③ 話の内容を聞き取り、自分の考えに生かせる力と、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする能力を育成する。
- ④ 読む力を高めるために文学作品を読んで批評する力、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。知識を広げたり、考えを深めたりできる力を育成する。
- ⑤ 言語についての知識・理解・技能を高めることにより、課題の設定・解決能力を深め、生きる力を養う。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

- ① 副教材「漢字の学習・学習漢字ノート」から小テストの実施。
- ② 「漢字能力検定」を年2回実施。
- ③ 副教材の活用。授業内で復習。家庭での予習。
- ④ 百人一首大会（1・2年）の実施。
- ⑤ 意見発表会（全学年）の実施。
- ⑥ 受験対策としての問題演習・小論文（200字作文）指導。

### 『成果』

- ① 言語についての知識・理解を高めることができた。
- ② 漢字小テストの継続実施により、基礎基本の力を向上させられた。
- ③ 和歌・代表的な古文の暗記、歴史的仮名遣い必修古語の学習をおこなった。
- ④ 意見文の作成・推敲・発表によって、思考力を高めることができた。
- ⑤ 200字作文を実施により、考えを書き表す力が向上した。
- ⑥ スピーチテストの実施により、人前で話すときのポイントについて理解させることができた。

### 『課題』

- ① 基礎基本の力が十分でない生徒への手立て、スモールステップの提案をする。
- ② 提出物が出せない生徒への個別支援を考える。
- ③ 古文・文語的文章に苦手意識がある生徒への手立て。
- ④ 自分の考えを固め、発表することへの苦手意識。
- ⑤ 「書くこと」への抵抗を減らすための継続的な取り組み。
- ⑥ 発展的な学習として「漢字能力検定」を受検させ、漢字のスキルアップを図る。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

- ① 「知識」に関する問題では、文脈に即して正しい漢字を書くことや文法的な事項に関しては7割の正答率を超えている。
- ② 「話す力・聞く力」の回答率は8割を超えている一方、「書くこと」は6割に留まる。
- ③ 「読むこと」の平均正答率は全国平均と比較して、若干下回る。
- ④ 都学力調査の東京都平均と比較すると、どの項目も東京都の平均を上回る。特に、関心意欲態度の結果は東京都の平均を約12ポイント上回る結果であった。今後も授業を通して子供たちの意欲を高められるような授業を実践したい。
- ⑤ 都学力調査の東京都平均は上回っているものの、書く力を問う問題の正答率は約51%、取り出す力を問う問題の正答率は約45%であり、課題がある。生徒の熟考を促すような活動を展開する必要がある。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 「基礎基本の力を身に付けさせる手立て→漢字小テストを実施する。また、ワーク、漢字練習プリントを工夫し、習熟させる。漢字等の学習について、ワークブックの点検や小テスト等を通じて確実に取り組ませ、自主学習の充実を図る。
- ② 古文・文語文への苦手意識がある生徒への手立て→百人一首大会の実施、暗唱の実施により抵抗感を少なくさせる。
- ③ 自分の考えを固め、発表することへの苦手意識がある生徒への手立て→学校行事「意見発表会」への取り組みを通して、発表のための意見作りや発表する上での大切なことを学ばせる。また、定期的なスピーチの実施をし、「話す力」をさらに身につけるために効果的なスピーチの仕方を学ばせる。
- ④ 「書くこと」への苦手意識がある生徒への手立て→200字作文の定期的実施、チェックを継続し、文章の書き方や表現の方法について学ばせる。また詩や俳句などの創作活動を行い、考えを表現させる活動を実施する。
- ⑤ 発展的な学習→学校での取り組みである朝読書の取り組みを充実させる。また、課題図書を提示するなどして、生徒の語彙力の向上、思考力の向上、および知的好奇心を育みたい。その過程で、漢字能力検定への受験も案内する。

# 【社会】

## 1 教科の目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

## 2 教科として考える「確かな学力」

社会科の学力とは、社会事象を広い視野に立って多面的・多角的に考察し、主体的に考え、判断できる力であると考え。その基礎として、まず基礎的・基本的な知識を理解する必要がある。また、多種多様な資料を読み取り、選択し、活用する力や、自分の考えをまとめ、発表する力も重要である。

- ① 基礎的・基本的な知識
- ② 諸資料を読み取り、選択し、活用する力
- ③ 広い視野に立って多面的・多角的に考える力
- ④ 自分の考えをまとめ、発表する力

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

時事問題（ニュースなど）を授業で新聞などを使い紹介し、生徒に考えさせる。その際、単元の学習内容との関連に配慮する。

定期考査の前に復習の時間を取り、単元の内容のまとめと問題練習を行う。この時間に質問を受け、生徒の疑問を解消し、意欲的に定期テストに取り組めるようにする。

### 『成果』

- ① 時事問題を授業で触れることにより、授業の内容を発展させ、興味を持たせることができた。
- ② 定期考査前の復習時間は、基本となる事項を再確認させるのに有効と思われる。
- ③ 学習発表会などを使い学習の成果を発表することができた。

### 『課題』

- ① 身近な問題を単元の内容といかに関連付けるか、わかりやすくするか検討する。
- ② 基本となる事柄を身につけさせる指導の充実を図る。
- ③ 習得型の授業だけでなく、活用型の授業も取り入れていく。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果より、歴史的分野では年表を使用した問題の正答率が低かったため、単元の終わりに年表を使用し、政治を行った人物や外交の動きについて復習する学習を取り入れる。地理的分野では世界の様々な地域の生活についての正答率が低かったため、文章でまとめるだけでなく、図や写真などの視聴覚教材を使用し、生徒の理解を高めていく。全体的に、社会の出来事への関心は高い。基礎的な内容を確実に理解させるための指導を続けるとともに、今後、多面的・多角的に考えさせ、その考えを表現する力を育てていく指導方法を充実させる。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 社会への関心を向けるための教材（新聞・雑誌・ビデオ・DVDなど）を工夫する。
- ② 生徒に社会の出来事についての考えを持たせて、発表させるため、レポート作成や意見の発表を行う。
- ③ 基礎・基本となる事柄を身につけるために、繰り返しの学習が大切である。そのために復習タイムを継続させる。
- ④ 長期休業中や定期考査前に補習教室を行い、基礎学力の底上げを図る。

# 【数学】

## 1 教科の目標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

## 2 教科として考える「確かな学力」

- ① 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解できること
- ② 数学的な表現や処理ができること
- ③ 事象を数理的に考察できること
- ④ ①～③を身につけ、活用しようとする

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

- ① 少人数数学級3コース共通で使用できる学習プリントを作成し、授業の進度に合わせて生徒に配布し活用させる。問題演習の時間に一斉に取り組みせたり、課題が早く終了した生徒が自分で学習したり、家庭学習で利用できるようにする。また、定期考査前はプリントを発行し、希望者が活用できるようにする。
- ② 授業で確認のプリント学習を行い、基礎的事項、基本的な技能・表現の定着を図る。
- ③ 数量分野における「式による説明」、図形分野における「証明問題」などで、穴埋め形式から取り組み、授業の中で全文書かせるような機会を意識的に増やしていく。

### 『成果』

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の都の平均推定値と本校の平均値を比較すると、『A 教科の内容』では全ての項目で、『B 読み解く力に関する内容』では「取り出す力」「読み取る力」の項目で東京都の平均値を上回っている。

### 『課題』

- ① 生徒が数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的な事象に関心をもって学習していく姿勢を育てられるような授業内容の工夫をおこなっていく。
- ② 生徒が数学的な見方や考え方を身に付けていくための学習時間の確保や教材の研究を行っていく。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

1年生は週4時間中の3時間、2年生は週3時間中の2時間、3年生は週4時間の少人数授業を実施している。コース編成は、生徒の希望をベースに、テストの結果、授業での様子などを考慮して、単元ごとに組み替えを行っている。3～4分割の習熟度別・定着度別の少人数授業を導入することにより、基礎・基本が定着していない生徒や理解が十分でない生徒に対してきめ細かい指導を行う努力をしている。また、数学に関する意欲や理解力の高い生徒には、学習意欲を高めるためにより高度で興味深い内容を提供するように工夫している。また、今年度より計算問題集を用いて基礎的な内容の確認と定着を図っている。

今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、「解決する力」の項目で本校の平均値が東京都の平均値を下回っているため、少人数指導と学級単位の指導の両面において生徒の数学に対する興味・関心を引き出し、論理的に考察し考えを深めることのできる指導を行っていく。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 少人数数学級各コースにおいて生徒の習熟度・定着度に合わせた課題や演習を行っていくことで、生徒の数学への興味・関心の向上を図る。
- ② 計算問題集で、学習の習慣、基礎的事項、基本的な技能の定着を図る。
- ③ プリントによる問題・課題への取り組みを行っていく、事象を論理的に考察し表現する力、数学的な見方や考え方の定着を図り、解決する力をつけていく。

## 【理科】

### 1 教科の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

### 2 教科として考える「確かな学力」

身のまわりの自然現象を素直な感性でとらえ、その現象がどのようにして起こったのかを科学的・理論的な思考で理解しようとする前向きな姿勢を持つ生徒を育てるために、以下の3つの力を培う。

- ① 様々な現象を自分の感性で感じ取ることができる力
- ② 基礎・基本をしっかり身につけることができる力
- ③ 基本的な実習機材を正確に扱うことができる力

### 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

#### 『取り組み』

多くの実験を行うことで、理科への興味・関心を高め、苦手意識の払拭を図った。また、少人数のグループで実験を行うことで、学習内容の定着と知識理解も図ることができた。考える力を伸ばそうと各時間で振り返るシートを用いたり、レポートの再考察などを行った。

次に、発展的な課題・内容として、学習したことが、社会でどのように活用されているかを、PCを用いて生徒個人で調べたり、動画や画像を活用しながら学習することで、各学年で学習した内容の中の各単元との関連性を意識させつつ、知識理解・知識の定着を目標とする授業展開を行った。自ら理論的に考え、結果を導き出す力を付けられるように、昨年度に引き続き「自ら仮説を立て実験を通して検証する」という流れの授業や課題を取り入れた。

別の視点として、授業が安全に落ち着いて進められるように、特に理科室やPC教室など特別教室を使用する際の授業規律の確立を、理科の教員が情報交換をしながら、一律になるように共通理解を図り、生徒の教科指導とともに生活指導も含めての授業展開になるよう努めた。

#### 『成果』

- ① 各学年とも実験やPCを活用することで興味・関心をひき出すことができた。
- ② レポートへの取り組みの姿勢が学年をおうことに積極的になってきている。
- ③ 調べ学習など多くの情報に触れることにより読み取る力が高まった。

#### 『課題』

- ① 授業規律を確立する。授業のルールやレポートの書き方・提出等、授業進行がスムーズになるように生徒と共通理解を図る。
- ② 「解決する力」が他の観点に比べて低いため、「結果だけを覚える」段階でとどまってしまっていると考えられる。
- ③ 話し合い活動を取り入れ、自分の意見を発表できるように実践させる。

### 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

生徒実験を数多く行いながら学習を進められる単元とそうでない単元が出ているため、IT機器を活用しながら、実験で体感できないことを分かりやすく伝える授業の手立てを検討する。実験については、生徒への安全面での配慮を例年通り怠ることなく、予備実験から想定される諸問題が発生しないよう、説明の時間を確保しながらの授業展開を行っていく。

また、「思考・判断・表現」や「解決する力」が他の観点に比べ低いことから、生徒が受け身の授業でなく、生徒が主体的に考える授業展開になるよう、指導計画と各授業での指導案を練る必要がある。

### 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

「思考・判断・表現」と「解決する力」が他の観点に比べ低い傾向にある。問題提起し、生徒一人一人が自分の意見をしっかり持つようにする。また、その意見を持った根拠を挙げることで、論理的な思考力をつけられるようにする。そして、生徒の導きだした結論と、指導内容で伝える理論が一致しているか、どのような点でズレが生じているかを教員が判断し、授業展開に盛り込んでいく。これまでの取り組みを継続するとともに、自ら考え答えを出す時間を確保し、授業充実を図るとともに、学力向上を目指した授業改善を推進する。

# 【音楽】

## 1 音楽の目標

表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

## 2 教科として考える「確かな学力」

多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、創意工夫して表現する力。多様な音楽の良さや美しさを味わい理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する力。

## 3 昨年度の取り組みおよび成果と課題

### 『取り組み』

しっかりとした授業規律を確立し、様々な楽器を使ったアンサンブルや合唱など、多様な音楽体験の場を設けて幅広く音楽学習させることにより、生徒の興味・関心を引き出し、音楽学習への意欲を喚起させた。

パートやグループなど、一人一人がのびのびと主体的に表現活動ができる練習形態を工夫したり、合奏や合唱などみんなで音楽を作り上げる楽しさを味わわせたり、お互いの演奏を聴き合う場面を設けて、意欲的に表現できる雰囲気を作り、表現の技能を高めさせた。

鑑賞活動では、イメージを持たせるとともに、その理由を共通事項の言葉の要素を使って根拠を考えさせ言葉で表現できるよう工夫し、言語能力も高めた。

変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、適切な声域と音量で歌わせ、音楽への意欲を損なわないように配慮した。

### 『成果』

様々な楽器を使ったアンサンブル等、多様な音楽体験の場を設けたことにより、歌唱表現が苦手な生徒の音楽学習への意欲を喚起させることができた。練習形態や方法の工夫により、合奏や合唱などみんなで音楽を作り上げる楽しさを味わわせることができた。鑑賞では、言葉の要素を伝えることにより、イメージしたものの根拠を考えさせ、言語能力も高めることができた。

### 『課題』

少ない時間と個別の音楽経験に大きな差がある中で、歌唱表現の楽しさを味わわせること。

表現に必要な発声や楽器の扱い、読譜の技能を一人一人の状況に合わせて高めること。

古典作品や伝統音楽などの教材で、主体的、意欲的な楽曲とのかかわりを引き出すこと。

感じたことを、言葉の要素を使って豊かに表現させ、言語能力を高めること。

## 4 今年度の学習状況および指導方法の課題分析

1年生は、音楽に対する関心・意欲や、音楽経験や音楽活動の基礎的な能力に個人差があるので、基本的な学習態度を身につけさせる。そのためには、個々の能力を把握し、個に応じた指導を工夫する。

2年生は、歌唱表現には意欲の向上が見られるようになってきたが、音楽経験や音楽活動の能力に個人差があるので、個別指導の方法を工夫し、個々の個性や能力が授業の中で生かせる指導を工夫する。

3年生は、歌唱表現には意欲的だが、音楽への興味・関心の高さ、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取る力に個人差がある。一人ひとりの興味・関心が一層個性的なものになってきている。

音楽科の指導体制の中で、合唱コンクール期には、合唱指導を中心とした学習指導を展開する。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

1年生は、しっかりとした学習規律を確立し、個別指導、パートやグループ別指導を充実させる。

2年生は、多様な演奏形態を工夫し生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に学ぶ力を身につけさせる。

3年生は、歌詞の内容や曲想を味わう学習場面をもち、自己のイメージや感情を意識させ、表現の工夫につなげる。

音楽から感じ取ったことを言語を用いて、表現豊かに説明し、根拠を持って批評する。また、歌詞と音楽との関係を大切にするすることで、言語能力を高める活動を行う。

古典作品や伝統音楽などの教材では、可能な範囲で視聴覚教材や楽器に触れる機会を作る。

# 【美術】

## 1 美術の目標

表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

## 2 教科として考える「確かな学力」

- ① 確かな観察力と豊かな感性を身につけ、想像力を働かせて主題を生み出し、表現の構想を練る力。
- ② 意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現できる力。
- ③ 作品および様々な事物から美を感じ取り、自分の思いや考えを言葉で説明できる力。

## 3 昨年度の取り組みおよび成果と課題

### 『取り組み』

- ① 発想力を重視し、想起したものを具現化する力を身につけさせる。
- ② 完成度の高い作品を目指して根気強く取り組み、完成の喜びを味わわせる。
- ③ 完成作品に対し、ねらいや反省などのまとめをおこない、取り組みの確認と次回への意欲をもたせる。

### 『成果』

- ① 課題のねらいや、制作の流れなどの理解に努め構想段階を丁寧に指導したことで、発想のおもしろさや創造性を感じさせる作品が多く生まれた。
- ② 課題作品に対し自己評価をおこなわせるとともに、相互鑑賞を多く取り入れたことでの気づきや学びが、次への制作意欲につながった。

### 『課題』

- ① 予定時間内に完成させるために、集中力と計画性を養い、描写力、造形力をさらに高める指導を行う。
- ② 日頃より周囲の事物に対し、関心をもって眺め対象物の形や構造、色彩などを観察する習慣を身につけさせる。

## 4 今年度の学習状況および指導方法の課題分析

- ① 美術への関心・意欲・態度  
全体的に意欲的であり、与えられた課題に対してしっかり取り組もうとする姿勢がある。
- ② 発想や構想の能力  
豊かな発想やイメージを想起させるために、導入や提示方法を工夫する必要がある。また想起した内容を深化させるための十分な時間確保が必要である。
- ③ 創造的な技能  
意欲的に制作を行っており、概ね理解力もあるが、表現技法のポイントや段取りをより確実に把握させるよう工夫をする。
- ④ 鑑賞  
対象から受ける感想だけにとどまらず、表現の工夫や作者の思いなどへの気づき、また自分の作品についての考察も具体的な言葉で表現できることに重点を置く。一人一人の表現方法を認める場をつくる。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 課題の取り組みにあたっての手引きを作成し、ねらい、流れ、評価のポイントなどについて興味、関心をもてるよう工夫し、理解させる。また課題については、生徒の実態に即したものとするために十分検討する。
- ② 発想やイメージの想起を豊かに行うために、課題のねらいや参考となる資料を丁寧に説明、提示して理解に努めさせる。アイディアスケッチに取り組む時間を十分確保し、想起したものを言葉で表現し、形に描写できる力を身につけさせる。
- ③ 本時の制作目標に到達できるよう流れを理解させ、個々の進度に合わせた指導助言を工夫する。
- ④ イメージを言語化させることに重点を置きながらワークシートの設問や構成を工夫し、主体的に取り組ませる。意見を言いやすい環境づくりに努め、交流活動をいかした授業を計画する。

# 【保健体育】

## 1 教科の目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

## 2 教科として考える「確かな学力」

- ① 運動・健康・安全に関する興味関心や知識をもつ。
- ② 積極的な活動を重視する中で技能や体力の向上を図る。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

- ① 積極的に体づくり運動や各種目に取り組むことにより、体力の向上を図る。
- ② ペアワークやグループワークを通して、お互いを高めあうためのアドバイスや学習カードの活用により、主体的に運動やトレーニングに取り組む態度や実践力の向上を図る
- ③ 基礎・基本の徹底を図り、自他の安全面に気をつけて運動する態度を身につけさせる。

### 『成果』

- ① 新体力テストの結果から、各種目とも1年次には全国平均に遠く及ばなかったものが、学年が進むにつれ向上し、3年次には数種目にわたり、全国平均を上回るようになった。
- ② T.T.により、きめ細かな指導を行うとともに、授業規律の徹底ができた。
- ③ ペアワークやグループワークを通して、お互いを高めあうためのアドバイスや学習カードの活用により、主体的に運動やトレーニングに取り組む態度や実践力を高めることができた。

### 『課題』

- ① 運動に関する興味・関心をもたせるための工夫をする。
- ② 運動におけるルールを守る重要性を学ばせ、社会性を育てる。
- ③ 交流活動を充実させ、思考力や判断力の伸長に努めるとともに、自尊感情や自己肯定感の向上につなげる。
- ④ 健康の保持増進の意義を考えさせ日常生活の課題を明確にさせる。
- ⑤ 自己の体力や適正および課題を知るために、新体力テストを実施する。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

今年度は、全体的に、係の生徒を中心に意欲的・積極的な授業運営ができています。

ただし4月から5月にかけて行った新体力テストにおいて、1年男子は2種目、2年男子は3種目しか全国平均を上回っているものがなく、さらに1・2年男子は大きく下回るものが2種目あるという現状である。

したがって上記以外の学年でも、体力の向上を必要とする生徒が多いため、「体づくり運動」の意義を理解させ、積極的に行うよう意識付けを行う。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 筋力トレーニングを毎時間取り入れることはもとより、その意義を理解させるために保健分野や体育理論を絡めた指導を行う。
- ② 授業のねらいを理解させると同時に自らの課題をつかませることや、T.T.を活かした個々の能力に応じた支援の仕方の工夫や改善を図る。
- ③ 交流活動を充実させ、思考力・判断力の向上を目指し、ペアワークやグループワークを通して、お互いを高めあうためのアドバイスの方法を指導し、自尊感情や自己肯定感を向上を図る。
- ④ 体育係やチームにおけるリーダーの育成に取り組む。
- ⑤ 保健分野では、健康・安全に対する知識理解から日常的な課題を発見し具体的な改善策を考え、調べ・まとめ・発表することなどにより、お互いの学習意欲への向上を図る。
- ⑥ 道徳的価値を保健体育科の授業にも計画的に位置付けていく。  
上記のこれまでの取り組みを継続するとともに、必要に応じてさらに充実を図り、体力・技能・判断・知識の向上を目指した授業改善を推進する。

# 【技術・家庭】

## 1 教科の目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

技術分野では、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

家庭分野では、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

## 2 教科として考える「確かな学力」

「よりよい生活を築くことを目指し、具体的に生活の中で活かせる能力や態度」であると考えている。生活に必要な基礎的な知識と技術を習得させるとともに、実践的・体験的な学習活動を充実させることにより、「確かな学力」を身につけさせていきたい。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

生活の中で活かせる能力や態度を育てるために、次のような取り組みを行ってきた。

- ① 学習している内容と生活の関わりを強く意識させる指導
- ② 得た知識や理解できたことが、実際の製作などの学習での技能へとつながっていく指導
- ③ ものをつくる楽しさや完成の喜びを味わえる指導
- ④ 製作過程でつまずく生徒へ対しての個別の支援や指導
- ⑤ 学習集団の特性をとらえ、相互の学び合いを活かす指導

### 『成果』

- ① 製作において、能力に応じて努力し、よりよい作品を作り上げようと取り組むことができた。
- ② 個別の支援や指導を行い、作品を完成させ、作品展へ出品することができた。
- ③ 生活に関する課題を考える中で、生活への興味・関心をさらに深める生徒が増えた。

### 『課題』

- ① 生徒の興味・関心を活かした授業の展開をさらに進めていくこと。
- ② 生活と関連した学習活動をさらに進め、生活をよりよくする意識を高めていくこと。
- ③ 限られた時数のなかで、実践的・体験的な学習活動を充実させる授業の展開をさらに進めていくこと。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

第1学年では、全体的に活発に学習活動に取り組む状況の中で、ものづくりの基礎的・基本的な学習を進め、この学習を通して得た知識や理解を実際の製作での技能へとつなげるとともに、満足できる作品の完成に取り組んでいくこと。

第2学年では、全体的に前向きに学習活動に取り組む状況の中で、エネルギーの利用や食に関する学習を進め、この学習を通して得た知識や理解を実際の生活に関連づけ、よりよい生活を目指して生活に活かしていく姿勢を育てるとともに、安全に利用できる作品の完成に取り組んでいくこと。

第3学年では、全体的に落ち着いて学習活動に取り組む状況の中で、情報機器の活用・国内や世界の子どもの状況や問題に関する学習・高齢者の理解を深める体験学習を進め、この学習を通して得た知識や理解を、適切に活用できるように取り組んでいくこと。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

年々、子どもたちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活にかかわる技術を活用できるようになることを目指し、ものづくりの楽しさやつくり上げる喜びを感じ、愛着のもてる作品づくりができるように、実践的・体験的な学習活動、教え合いや学び合いや助け合いのコミュニケーション能力を活かし伸ばす班活動や発表活動、個性や感性を活かしてよりよい作品づくりに挑戦し工夫できるような材料の利用、限られた授業時間の中で学習内容を充実させるためのワークブックやワークシートの活用、視聴覚教材の活用、安全に作業に取り組む授業規律の確立、等の取り組みを進めていく。

また、学習活動の前半に学んだ基礎的・基本的な事項の知識・理解が、学習活動の後半となる実際の作品づくりでの技能・創意工夫へとつながっていく授業の展開に努め、身についた学習内容を実際に活かすことができるように指導を今後も進めるとともに、必要に応じてさらに充実を図り、学力向上を目指した授業改善を推進する。

# 【英語】

## 1 教科の目標

外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

## 2 教科として考える「確かな学力」

「相手とコミュニケーションをはかる手段としての英語基礎学力」と考えている。コミュニケーションとは相手と話したり、相手の話を聞いたりするだけでなく、相手に自分の思いや考えを書いたり、相手の伝えたいことを読んで理解することも含まれる。話す力、聞く力、書く力、読む力の4技能のバランスのとれたコミュニケーション能力の基礎を養うことが「確かな学力」を身につけることと考えている。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

- ① 「書くこと」に関しては、語彙力育成のため単語テストや BINGO 等を継続的に行った。ワークシートで基本表現の定着を図り、スピーチ原稿や英文手紙、メッセージ文など、自己表現力につながり活動を行った。
- ② 「話すこと」については、帯学習でペアでのスピーキング活動の充実を図った。ALTとのスピーキングテストを実施し、自分の夢や自己紹介、意見などをスピーチで発表させた。
- ③ 「聞くこと」については、リスニングで英文の聞き取りに重点を置き、英語での Q&A を工夫して行った。
- ④ 「読むこと」に関しては、様々な種類の英文を読む機会を持つと共に、英文の読み方や内容のつかみ方を知り、実践できるように定期的に学習活動に取り入れた。

### 『成果』

- ① Q&A の取り組みにより、質問を聞き取る力や適切な表現で答えたり、書いたりする力が徐々に増えてきた。
- ② ペアワークやスピーキングテストにより、英語で自分を表現し、伝えようとする力が育ってきた。
- ③ まとまった英文を読む機会が増えたことで、英文に慣れ、読み取る力の素地を養うことができた。

### 『課題』

- ① 1文だけでなく継続して Q&A を行えるようにするための工夫と手立てが必要である。
- ② 自分のことばで書いて表現する力の育成と発表のための工夫が必要である。
- ③ 長文を速読する力を養うために、長文読解の取り組み方へのさらなる工夫と検討が必要である。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

教科書重要文の口頭練習・ペアワークなど、音読を繰り返す活動や、ユニットごとに重要文を書くなど、反復練習をする中で定着を図っている。さらに毎時間宿題を課している。また、学年・生徒の実態に応じて、ディクテーション、自己表現活動等を行い、書く力を伸ばす指導を行っている。

しかし、第1学年では自己表現につながるライティング活動や、音と音のつながりに気をつけて聞くこと・話すことが十分ではない。第2学年では、都の学力調査の結果によると、読みとる力がまだ弱い。第3学年では辞書を活用した自己表現活動、速読、Q&A に正確に解答する力を身につける指導が十分ではない。これらが課題である。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① リスニングでは、リスニングポイントを与え、音のつながりに気をつけて本文を聞くなど、意識的に英語を聞き取る活動を充実させる。また、様々なタイプのリスニングに取り組ませる。
- ② ライティングでは、反復練習の継続により基本文の定着を図り、それをもとに辞書を活用した自己表現活動につなげる。共有する場を設けて評価し、さらに意欲を高めていく。
- ③ リーディングでは、英文の読み方やあらすじのつかみ方など、精読指導の工夫をさらに行っていく。また、内容についての発問の仕方を工夫し、適切に答える力を育成する。
- ④ スピーキングでは、質問に対する応答にもう一文付け加えるなど、状況に応じた表現活動の指導を継続する。また、本文の暗唱を土台にして、さらに自分の力で内容を伝えたり、特定のテーマについて自分の考えを英語で表現させる機会を増やしていく。

# 【道徳】

## 1 道徳の目標

学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

## 2 道徳を通して「身につけさせたい力」

- ① 基本的な生活習慣を身につけ、規範意識を理解し、生き活きと生活する態度。
- ② 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する精神。
- ③ 相手の立場を尊重し、広い心であらゆる状況にも対処できる精神。
- ④ 礼儀を重んじる、豊かな社会性。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

- ① 各学年の実態に応じて、適切な時期にそれに対応する資料や題材を準備して道徳的意識を高めた。
- ② 道徳の時間だけでなく、各教科の中で道徳的価値に当てはめた授業展開を行ったり、活動を意識的に取り入れたりすることで、学校全体で道徳を意識した指導体制を作った。
- ③ 道徳授業地区公開講座をはじめ、道徳授業の内容を発信し、家庭・地域社会との結び付きを強め、健全育成と情操教育に努めた。
- ④ 進路指導と関連させ、社会の一員としての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度および郷土・自国を愛する気持ちを養った。

### 『成果』

- ① 道徳の時間だけでなく、どの教科にも道徳的価値を取り入れた授業展開をすることが可能ということが実践を通して分かった。
- ② 思いやりや協調性を身につけさせるためには、小集団活動が有効的な手立ての1つであることが分かった。

### 『課題』

- ① 各教科の指導内容と道徳内容の関連付けの振り返りと工夫。
- ② 学校全体としての道徳指導の取り組み方についての工夫。
- ③ 道徳性を高めるための効果的な小集団活動や表現活動、討論活動の工夫。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

今年度は、研究テーマでもある「自尊感情を育む」指導とも関連させながら、授業展開を工夫していく。

具体的な活動として、言語活動を積極的に取り入れた授業展開や、お互いを認め合う接し方やルール作りなどを工夫する。活動を通して、自己を認める気持ちや他者に対する思いやりの気持ちを育みたい。

また、道徳の時間以外でも、授業や各学年の学年だよりや学級だよりを通して、継続的に意識付けをしていくようにする。各教科及び各学年における道徳と関連付けた指導については、今後も実践を繰り返しながら見直し、発展させていく必要がある

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 各教科で、活動内容や指導内容を見直し、道徳と関連づけられる場所を再検討する。
- ② 学年全体で道徳指導のねらいの共通理解を図り、各学年の生徒の実態に応じた指導を行う。
- ③ 学習活動における言語活動やペアワーク、グループワークの工夫と取り組み方を研修や共通理解を通して行い、実践につなげる。

## 【特別活動】

### 1 特別活動の目標

望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自尊感情を高め自己を生かす能力を養い、人間としての生き方の自覚を深める。

### 2 特別活動を通して「身につけさせたい力」

- ① 集団の各構成員が互いに人格を尊重しあい、個人を集団に埋没させることなく、それぞれの個性を認め合い、自分に自信を持って行動していく力
- ② 自己の能力・適性等を十分に理解し、所属する様々な集団に所属感や連帯感を持ち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度
- ③ 充実した学校生活を実現させるために目標を設定し、決まりについて共通理解し、互いに協力しあい望ましい人間関係を築く力
- ④ 社会の一員としての望ましい在り方を身につける。「あ・じ・み・こ・し」挨拶、時間を守る、身だしなみ、言葉づかい、姿勢を本校の合言葉として、学校生活や各行事での取り組み

### 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

#### 『取り組み』

- ① 各学年の宿泊行事、校外学習・・・目標、ルールについての学級、係、実行委員会での話し合い活動。
- ② 運動会、合唱コンクールなどの全校行事・・・学級全体での話し合い活動と討論。
- ③ 進路学習・・・進路資料やアンケート、職場体験をもとにした学習活動とガイダンス。
- ④ 定期考査の計画と反省・・・学習計画表の作成とそれをもとにした学習活動。
- ⑤ 各学年の生活のまとめ・・・資料やアンケートをもとにした学年集会の取り組み。

#### 『成果』

集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、各学級での取り組みが、各学年に反映され、その後全校での取り組みにつながっていくという流れにそって取り組みがスムーズに進むようになった。

#### 『課題』

個の活動から全体へつながる流れを大切にしつつ、内容が形骸化しないように、生徒の実態を的確にとらえ、柔軟に指導効果を把握していくこと。

### 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

- ① 宿泊行事や校外学習において集団生活のあり方や公衆道徳など、望ましい体験作りを行っている。
- ② 学校生活における係活動や、行事などを通して生徒に達成感を与え、自尊感情や自己肯定感の育成を図っている。
- ③ 話し合い活動やワークシート、アンケート等を利用して、生徒が自らの課題について深く考え、学校生活を向上させる行動ができるよう、活動内容を工夫している。
- ④ 進路ファイルを利用した進路指導を引き続き行い、3年間を見通した進路指導を行っている。
- ⑤ 月間の生活目標や学校生活の反省アンケートを行いその結果をもとに、生徒の学校生活の充実と向上につながる取り組みを行っている。

### 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 『課題』克服のために月間の生活目標や学校生活の反省アンケートを行い、その結果をもとに、生徒一人一人が充実した学校生活を実現させるための目標や規範を設定し、健全な生活態度や人生、社会について主体的に考える姿勢を養うよう指導をする。
- ② 各生徒がより深く考え、学校生活の向上や学業生活の充実を目指すように、活動の内容・学習計画表をさらに工夫する。
- ③ 分掌組織をもとに学級・学年・生徒会・各種委員会が連携しながら指導を行う。
- ④ 各家庭や地域の人々との連携を深め、人材をはじめ、社会教育施設の活用などを工夫する。

# 【総合的な学習の時間】

## 1 総合的な学習の時間の目標

- ① 調べ学習、課題学習、進路学習を通して学力向上と関連付け、それぞれの課題を見つけ、解決する力を身につけさせる。
- ② 生きる力を育むために人との触れあいや発表を通して、状況に応じた表現ができるようにする。
- ③ 外部機関の講師による授業も併せて、働くことへの意識を高めるとともに、生徒一人一人が自己の課題をとらえ前向きに取り組めるようにする。
- ④ 「二中タイム」でテーマ読書、自由読書をすることにより、生徒の興味・関心を喚起し、多くの書籍を通して他の考えや生き方に触れ、思考力・想像力を伸ばす。

## 2 総合的な学習の時間を通して「身につけさせたい力」

- ① 第1学年 → 興味関心を基に課題を設定する力を身につける。課題に対して自分の意見を持ち、まとめる力を身につける。本に親しむ習慣を身につける。
- ② 第2学年 → 読書する習慣を継続的に維持する力。興味関心のあることについて調査し、発表する力を身につけさせる。働くことに対する意識を高める。
- ③ 第3学年 → 職業や自立生活への目標を意識し、主体的に進路を選択できる力。読書の習慣を継続する力。興味を持ったもの（人）について調査し、発表する力を身につける。

## 3 昨年度の取り組み及び成果と課題

### 『取り組み』

全学年共通の総合的な学習の時間と二中タイム（朝読書）

（第1学年）意見発表・職業調べ・校外学習・移動教室・校外学習

（第2学年）意見発表・レディネステスト・職場体験・校外学習・移動教室

（第3学年）修学旅行・上級学校調べ・意見発表

### 『成果』

全体的な取り組みを通し、生徒の自己評価を取り入れて成果の把握に努めるなどする中で、授業への積極性など向上が感じられた。自己理解や進路、生き方に関する課題へのつながりという点では、個人差が大きかった。

### 『課題』

- ① 個々の生徒における成果の把握
- ② 内容の精選、ねらいの一貫性
- ③ 読書活動で図書館専門員や 図書委員との連携を充実させる。

## 4 今年度の学習状況及び指導方法の課題分析

- ① 年度当初に『総合的な学習の時間』の年間計画を作成し、ねらいを明確にし、学習指導要領の改訂に伴う時間数の変化に対応しつつ内容の充実を図るために、学校全体の教育年間計画も含めて、改善の方向性を探る。
- ② 『二中タイム』の時間ふくめて、『総合的な学習の時間』の年間計画、月別指導内容を作成して実践している。
- ③ 各学年の総合的な学習担当教諭が中心となって、方法・実施・実践を推進するとともに、全体の共通理解を図る。

## 5 指導方法の課題分析に基づく改善プラン

- ① 授業時間数の実態に即して、「二中タイム」の時間の効果的な活用や、期間を集中させた総合的な学習の時間について学年ごとの計画を立てる。
- ② 図書館専門員、ハローワークなど外部の人材活用には早期に連携をとり計画を立てる。
- ③ 自分の考えを発表する機会や、感想や意見を交流する取り組みを充実させていく。